



## キワニズドールフェスティバル 初のオンライン開催 2021.6.5

12回目を迎えるキワニズドール・フェスティバルは、初めてZOOMを利用してオンラインで開催されました。昨年はコロナの影響で中止でしたが、今年はリモートにより200名以上が参加、全国規模での意見交換ができました。

東京キワニスクラブは2001年からキワニズドールづくりを開始、毎年医療機関などにドールを寄贈しています。今回は入院している子どもたちのためにドールを使っている医療現場から、さまざまな使い方の紹介があり、ドールの意義を再認識する機会となりました。  
(ボランティア活動委員会)



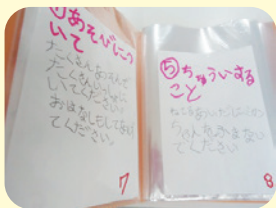
## 医療現場から活用法紹介 全国で意見交換

## 癒し

福井から参加のホスピタル・プレイ・スペシャリスト山田智恵美さん

キワニズドールは子どもの心を癒してくれる大切な存在です。白血病で入院していたそうすけ君は、キワニズドールに「みかんちゃん」と名前をつけ、「みかんちゃんのしおり」を作りました。そこに記されたみかんちゃんの役割は「寂しくないように一緒にいてくれます」「検査が怖くないように一緒にいてくれます」「お薬を飲むときに応援してくれます」など。取扱説明書もつくり「濡らさないように」「ご飯

やおもちゃを与えないように」と看護師さんをお願いしていました。



## 分身

順天堂大学医学部  
鈴木麻衣准教授

母子同室の長期入院では、逆に入院したお子さんの兄弟が数か月お母さんと会えない状態になるので、かなりのストレスに。そこでお母さんと一緒にドールに絵を描いて、家に持ち帰ってもらうようにしました。お母さんの代わりとしてドールと一緒に寝たり、頬ずりをしたりしています。



## 聖路加国際病院チャイルド・ライフ・スペシャリスト三浦絵莉子さん

コロナ渦の影響で家族の面会ができなくなる中で、ドールが家族の絆をつないでくれます。自分の身代わりとして入院中の家族を枕元で応援したり、お家のベッドで寝てくれるパディーになったり、手作りのドールはまさに唯一無二の存在です。

## 検査・治療の説明に

千葉県亀田総合病院

ドールを使い始めて8年、プレパレーション(検査や治療の事前説明)に様々な工夫をしています。手術についての紙芝居、MRI検査や採血のパンフレット。いずれもドールが演じている写真を使ってわかりやすく説明しています。「ネフローゼ症候群の6歳の男児は事前にパンフレットで採血の説明を受けた時は心配でしたが、自分で絵を描いたドールを握りしめ、泣きながらも痛みを耐える姿が印象的でした」。どうしたら頑張れそうか、子どもが自ら考え、主体的に臨めることが大切で、ドールの存在はとても大きいといえます。



## 看護学生の在宅実習ツール

東京慈恵会医科大学  
看護学科・高橋衣教授

コロナに対応して病院内に遊び場保育室を開設しましたが、そこでもキワニズドールの力は大きいと感じました。病棟実習が難しい中で、遠隔実習でもドールは役に立ちました。ドールは安価なレターパックでも送れるので、学生の自宅に送って、ドールを子どもに見立てて点滴や輸液を固定する練習を重ねてもらいました。



長野県の伊那中央病院

手術の前にドールを使って聴診器、モニター、酸素吸入器の使い方や点滴などについて説明、子どもの年齢や発達に応じて興味を持ってもらえるようにしています。説明が終わると、新しいドールを渡して自由に絵を描いたり、親子で遊んだりしてもらっています。

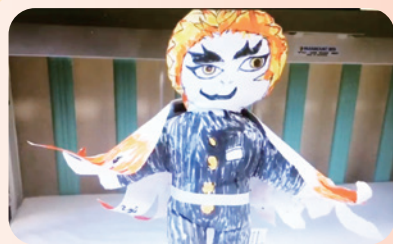


## ドールフェスティバル 「こんな使い方も」 現場報告に参加者感動

### 親子で一緒にドールづくり／先に旅立つ独身の成人、自分の分身を親に遺す

- ・国立病院機構四国がんセンター心理支援室の井上実穂さん 「成人のがん患者さんが専門だが、お母さんが入院中に子どもが寂しくないように、親子で一緒にドールを作って不安を和らげるのに役立てています。独身で30～40代の患者さんが親を残して旅立たれるときに、自分の分身として人形をつくって置いておくこともあります」
- ・エドワーズライフサイエンスでドールづくりのリーダーをつとめる藤原ベティさん 「今回は寄贈先でどう活用されているかがたくさん聞けて、参考になりました。コロナの影響でドールづくりの活動は中断していますが、早く再開したいです」
- ・東京医療秘書福祉専門学校の成田幸恵さん 「障害児保育、病児保育をめざす学生と授業の中でドールづくりをしています。たくさんの方からドールの必要性、重要性を教えてくださいました」
- ・国際医療福祉大学の医学生・山田真萌さん 「小児病棟で学習支援や遊び相手のボランティア活動をしているサークルに参加しています。ドール活用の広がりには驚きました。今回学んだことを私たちの活動にも生かしていきたい」
- ・終了後のアンケートでは、参加者の73%が「ドールをもっと広めたい」と回答。

「ドールの使われ方が多岐にわたることにびっくりし、感動した」「コロナ渦でもドールが必要とされていることが実感できた」「各種専門職との連携がドール拡大の可能性を感じさせてくれた」「改めてドールづくりをしてみたいと思った」といった感想が目につきました。



6歳男児がドールに描いた  
鬼滅の刃の煉獄さん  
(亀田総合病院提供)



ドールづくりを続けている田園調布  
学園の高校生も参加した

### ミシン掛け「ナーレの会」を表彰

大学・高校や企業での「ドールをつくる会」では、あらかじめミシンで縫い上げた布製のドールに綿を詰め、脇を手縫いで閉じる作業をします。型紙に合わせてミシンで白い布をドールの形に縫う事前準備工程を長年にわたり、一手に請け負ってきたのが、女性ボランティアグループ「ナーレの会」と大島秀子さん(個人)。ドールフェスティバルの冒頭、中井会長から表彰を受けました。ナーレの会を代表して田上美智代さんは「学校でのドールづくりの授業のお手伝いもさせていただき、ドールづくりの活動に貢献できたことをうれしく思う」と感謝を述べました。

大学・高校や企業での「ドールをつくる会」では、あらかじめミシンで縫い上げた布製のドールに綿を詰め、脇を手縫いで閉じる作業をします。型紙に合わせてミシンで白い布をドールの形に縫う事前準備工程を長年に

### フィリピンで子ども支援の学生団体に 青少年教育賞 表彰式 2021.9.17

第36回青少年教育賞の最優秀賞は、フィリピンのスラム街の子どもたちの健全な育成を支援している青山学院大学の「fanxfun学生ボランティア愛好会」に贈られました。コロナ禍の中での新たな取り組みとして、国内の子どもたちを相手にオンラインでフィリピンでの経験を生かした教育支援活動を始めた点が評価されました。これに次ぐ優秀賞には明治学院大学の「JUNKO Association」が選ばれました。ベトナムとミャンマーで学校の支援活動に取り組んでいます。表彰式では両団体の代表に対し、中井会長から表彰状と副賞が贈られました。(青少年教育委員会)



### 社会公益賞は手話のNPO法人に 贈呈式 2021.9.24

第55回キワニス社会公益賞は手話を使って耳の聞こえない子どもとその家族を支援している「NPO法人しゅわえもん」に贈られました。自然体験を通じて子どもたちが学べる機会の提供や、手話による絵本の読み聞かせ(しゅわよみカフェ)、オンラインで耳の聞こえない子どもが楽しめる番組提供(しゅわえもんナイト)など、幅広い活動に地道に取り組んでいます。

代表やスタッフも聴覚障がい者のため、贈呈式での活動紹介も手話を使い、それを手話通訳者が声に出して説明するというやり方で、参加したキワニス会員にとっても初めての経験でした。(社会公益委員会)



## 夏休み寺子屋

# \夏の/ 寺子屋 in 妙法寺

8月2日(月)  
3日(火)

10:00~

2日はやま荘!  
3日はソフトクリーム!  
夏休みの宿題を  
スタートダッシュでがんばろう!



対象 小学生

内容 宿題・ドリル・読書など自由

場所 堀之内「妙法寺」

夏休みの宿題や自分でやりたい  
学習材料を持ってきて下さい



HP

お申し込み方法 下記メールアドレスまでメールをお送りください。  
お子様の氏名・学年などをお知らせください。

suginami\_kosapo@yahoo.co.jp

お申し込み締め切り7月30日(金)



mail

電話でお申し込みの方 受付時間 9時~16時 03-3313-6241 妙法寺 望月・早坂まで



必ずマスクの着用を  
お願い致します



フィジカルディスタンス確保のため  
入室はお子様のみとさせていただきます。



当日遅くとも10:30  
までにお願いします。



事前検温をお願い致します。  
37.5度以上の方は参加できません。

共催：NPO 法人 マギなみ子どもサポート・一般社団法人 東京キワノスクラブ / 協賛：堀之内妙法寺

子どもたちの「居場所」として普段は土曜日  
に東京・杉並で開催している「寺子屋in妙法  
寺」を、夏休みは平日に2日間実施しました。  
今年はコロナの影響で小学校の夏休みのス  
タートが遅かったため、8月開催に。兄弟そ  
ろって、仲良しの同級生と一緒になど、両日とも  
20人近い小学生がそれぞれ夏休みの宿題を  
持って集まりました。

漢字や計算ドリルに取り組んだり、感想文  
を書く読書をしたり。中には遠くに転校してい  
った友だちに暑中見舞いのはがきを書く生徒も。

—昨年までは工作や紙飛行機やゲームなど遊びの時間もあつた  
が、昨年はコロナで寺子屋そのものが中止に。今年は万全の感染対  
策をとって勉強に集中する形となりました。(事業企画委員会)



## 寺子屋 in 妙法寺

### メニューは 「豚しゃぶうどん」や「焼きそば」など

子どもたちの一番の楽しみは、みんなで一緒に  
食べるランチ。つくるのは地元NPOメンバーであ  
るお母さんたち。初日は「豚しゃぶうどん」、2日目  
は「焼きそば」にたこ焼き、トウモロコシなどを添  
えたメニューでした。コロナの影響もあってお寺の  
厨房での煮炊きを避け、自宅で下ごしらえをした

料理を持ち込み、  
会場のホットプレ  
ートなどで仕上げ  
ています。食後には  
子どもたちの大  
好きなかき氷を今  
年も用意。お土産  
代わりに近所のカ  
フェのソフトク  
リーム無料券も配  
られました。



### 地域に広がる支援の輪 地元高校生も参加

この寺子屋は、ひとり親や共稼ぎの親の子どもたちが一緒に  
勉強し、食事をする「居場所」として2017年12月にスタート。  
いまは東京キワノスクラブとNPO法人すぎなみ子どもサポ  
ートが共催、会場の堀之内・妙法寺の全面協力を得て実施してい  
ます。

子ども支援の輪は  
地域での広がりを見  
せており、7月の土  
曜日の寺子屋には同  
じ杉並区内にある私  
立東京立正高等学校  
の生徒がボランティア  
として参加しました。  
小学生と年齢も近い  
ことから、自然に子  
どものやる気を引き  
出す。例えば計算ド  
リルに取り組む児童  
の横に座って、1ペ  
ージを何分ででき  
るかスマホで時間  
を測るなど高校生  
らしい指導してく  
れます。

別の日にはお寺の近くに住  
み、幼稚園で教えているフ  
ランス女性が寺子屋のこ  
とを聞きつけ、飛び入  
りボランティアとして  
参加。日本語も堪能で  
「とっても楽しかった」と、  
その後も顔を出してく  
れています。



## キワニス奨学生4人、コロナ禍に負けず学業に励む

東京キワニスクラブは現在、児童養護施設を巣立って進学した4人の学生に1人年間40万円の奨学金を支給しています。近況を伝える手紙からは、コロナ禍でも元気に学業を続けている様子うかがえます。

### 【ビジネス系専門学校2年Sさん】

2月から就職活動を始め、6月に無事内定をもらうことができた。満足にアルバイトができないこともあったが、ご支援のおかげで生活に困ることなく学校に通えていることに感謝したい。

### 【美容系専門学校2年Tさん】

アルバイトが飲食関係だったので、もしご支援がなかったら学校を続けることができなかった。来年4月から美容室で働くことが決まった。国家試験に向けて頑張っていきたい。

### 【医療系専門学校1年Fさん】

柔道整復師の資格を取ってスポーツトレーナーになるのが目標。勉強は難しく苦労の毎日だが、トレーナー部の部活にも入り、いろいろな学びや発見がある。

### 【医療系専門学校1年Hさん】

医療分野の勉強は人の命にかかわるため、覚えることが多い。いまは食事や掃除などの家事も一人でやらなければならない、施設にいた時のありがたさが身にしみる。日々進歩する医療技術に対応できる臨床検査技師をめざして努力していく。

## 金曜昼の例会

第1・3・5週の金曜に学士会館で例会を開催、ランチをとりながら識者の卓話を聞き、会員相互の交流を深めています。コロナ禍のため1~3月、5~6月は中止でした。

- 田中正昭会員  
外的環境変化の下でのキワニス活動の今後の在り方についての一考察
- 柏田道夫氏 (脚本家)  
シナリオならではの名セリフ、名シーン
- 小野泰洋氏 (NHKエンタープライズ・プロデューサー)  
子どもを育む里山のチカラ
- 倉田真由美氏 (漫画家) ★夏季特別例会  
すっきり生きる方法
- 岡田直也氏 (コピーライター)  
美しい日本語を、次世代に残そう
- ジョンソン・ハイランド氏 (元駐日アメリカ代理大使)  
外交官の使命
- 石神駿一氏 (NPO Learning for ALL コミュニティ推進事業部長)  
日本の子どもの貧困と課題解決アプローチ
- 石川えり氏 (認定NPO法人 難民支援協会 代表理事)  
世界の人道危機と日本の難民受入れ
- 西田紀子氏 (シエナウインドオーケストラ ピッコロ・フルート奏者  
桐朋学園芸術短期大学非常勤講師、長野県立小諸高等学校非常勤講師)  
フルートとギターとの演奏とお話
- 大野國重会員 (丸の内公証役場 公証人)  
改正相続法で変わったこと~公証人から見た動向
- 芹川洋一氏 (日本経済新聞論説フェロー) ★夜間会合  
日本政治の展望~岸田政権のゆくえ~



倉田真由美氏



ジョンソン・ハイランド氏

## 米国のクラブと オンライン交流

東京と米国インディアナポリスのキワニスクラブ会員が4月23日にオンラインで交流会を開きました。米国側のエリック会長ら40人と東京側の中井毅会長、吉田浩二元会長ら12人がコロナ禍の中でのクラブ活動などについて意見交換しました。

海外のクラブとオンラインで意見交換するのは今回が初めて。

### 新入会員紹介

- ・宮崎修二 (みやざき しゅうじ)  
入会日 2021年 7月30日
- ・井上 淳 (いのうえ あつし)  
入会日 2021年 9月 3日
- ・籙木栄胤 (かぶらぎ しげたね)  
入会日 2021年 9月 3日

### 物故会員

- ・関野直輔 (名誉会員)  
1974年 6月 7日入会  
2021年8月27日にご逝去されました。  
心よりご冥福をお祈り申し上げます。

### 事務局便り

この夏、最高齢、101歳の会員が亡くなりました。コロナ以前はお元気だったのに。90代の会員お二人はいまでも例会、火曜会などに必ず出席されます。東京キワニスクラブには「長生きのお手本」のような会員がずらり。元気をもらっています。

## 編集 後記

コロナ禍に対応してZOOMなどを利用したイベントが増えていますが、全国どこからでも参加できたり、海外との交流ができたりするのは、オンラインならではのところが活動レポートのような紙媒体に掲載する写真選びには苦労します。寺子屋のような対面でのイベントなら角度を変えて写真を撮れるが、画面上から臨場感のある写真を探すのはなかなか難しい。編集者にとって悩みのタネとなっています。(広報委員会)